

第二印象

加倉井範子

好き嫌いという判断は、第一印象で決めることがあります。多くの虫に愛情を抱いていますが、あのカメムシだけは、臭いという印象から抜け出せず、近くに寄ってみたこともありませんでした。

「高尾生きものが賑わう森作り、冬に昆虫をこんなところでみつけた！森にはどんな動物がいるのかな？」の観察会は知らない世界を見ることができました。午前中から午後にかけて集めた土壌生物や昆虫などを高尾わくわくピレッジ内で実体顕微鏡を使って観察しました。土の中の生きものは、なじみがなく親しみもありませんでしたが、実体顕微鏡で観察すると別世界を垣間見た気持ちになりました。

参加者の幼稚園の男の子は途中で少し飽きたのか廊下に1人で出てしまいました。危ないと思い後をつけていくと、窓の側で手招きをしています。「みて」というので、よく見ると灰色のカメムシが腹を出してひっくり返っていました。死んでいるように見えたので、臭い攻撃はないと思い「持って行って顕微鏡でみてみようか」というと意気投合、さっそく部屋に戻って観察をしました。肉眼では灰色にしか見えなかったあのカメムシがなんと美しい色で輝いているのです。そして、しばらくすると、かすかに動いているのです。

カメムシは世界で55,000種知られていて、昆虫の中で5番目に多い種類です。方言を調べてみると100種類を超える呼び名があります。意味不明の、ハトージ、ハットーじなど不思議な名で呼ばれているところもありますが、多くは臭いからきた名です。ヘヒリムシ、ヘコキムシの名前で全国に広がっていますが、その匂いは強烈で小さな容器に閉じ込め

てしまうと自分が出した匂いで、気をうしなったり、死んでしまうこともあります。臭いを出さないでと難を逃れるため拝むためかオガ、オガムシ、オガンなどという方言もあります。臭いは敵を攻撃することにも使われますが、集団を作るための集合フェロモンや危険を知らせるための警報フェロモンにも使われているようです。一般的に臭いイメージですが、肉食のカメムシは臭くないのです。

虫の居所が悪い、虫封じ、虫が知らせるなど虫のつく言葉は数多くあります。虫が人間の中に棲んでいるという表現はとても面白く疑問でした。あるとき、その話をしたら、友人は、昔はたくさんの虫がいたからだというのです。殺虫剤のない時代は、虫は生活の中にいて、虫を遠ざけることは困難だったはず。虫は日常だったのでしょうか。数多く接しているうちに第一印象から第二印象へと自然に変わっていくことができ、よく見るとかわいいものだと思ったのでしょうか。カメムシを、アネコムシ、エーニヨーボ、オヨメサン、ジョーサンムシなどと呼ぶ地方もあります。エサキモンツキノカメムシのメスは10日間ほど何も食べずに卵や幼虫を臭い攻撃などで敵から守ります。母親の鏡です。

子どもを自然の中に入れることで、新たな発見ができるのは、第一印象で固まってしまった大人なのかもしれません。いろいろな橋渡しをするのは子どもです。冬眠中の足のからまった、寝ほけたカエルを発見したもの子どもたちでした。

近くに子どもがいないときは、虫メガネをもって今まで見ていたものをもう一度見てみませんか。第二印象の新たなトビラが開き、楽しい世界を味わうことができると思います。

(かくらい のりこ)

参考:「虫と遊ぶ 虫の方言誌」斎藤慎一郎著 大修館書店 / 「カメムシ」大木邦彦文 海野和男写真 ポプラ社 / 「昆虫の?が!になる本」盛口満著 山と溪谷社 / 「虫のおもしろ私生活」ピッキオ編著 主婦と生活社

ボローニャブックフェア探訪記

永山 綾

写真も筆者

列車のスピードが落ちてきたので、車窓から外を眺めると、白く揺れる雪柳とまだ頼りなげな淡い若葉をつけた木々の合間に、やがて大きな青い標識が目飛び込んできた。“BOLOGNA”。そこから、洗濯物がはためく茜色の建物が少しずつ増えていく中を、さらに列車はゆっくりと走り続け、やがて懐かしい駅に到着した。

イタリアの列車は、車内放送や駅の構内放送がほとんどないので、標識を見損ねた人々は皆、口をそろえて、“BOLOGNA？”と、これから乗りこむ人に尋ねる。“Si, Si.”（「そうですよ。」）と答えるのを耳にし、私も安心して、プラットホームに飛び降りた。

ボローニャ国際児童図書展とは

ユーロスターに乗っても首都ローマから3時間近く、経済の中心地ミラノからも1時間40分以上かかる欧州最古の大学街でもあるボローニャ。そこで、毎年3月末か、4月に、世界最大規模の児童書の国際展示会が行われる。43回目の今年は、ハンガリーがテーマ国で、約1,200社（うち、海外63カ国から約1,100社）の出版社がブースを出し、出版関係者（出版社や、版權売買のエージェント、作家等）が昨年並みに約70カ国からおよそ14,000人（うち、約4割近くが海外から）来展し、そのほかに、書店、取次、図書館関係者を始め、これから、絵本作家を目指す作家の卵たち（中には日本人も！）が、大勢自分の作品の大きなポートフォリオを持って売り込みに来ていてなんとともにぎやかな四日間だった。

会場は、大きな七つの建物に分かれていて、その建物ごとに、だいたい国別（または地域別）

に出版社がブースを出している。日本の出版社は例年「29」という建物の一角を占めていて、毎年1社で大きなブースを展開しているところや、版權エージェントのブースを借りて、共同で何社か出展しているところもある中、今年初めて出展した出版社もあつたりと、日本国内での厳しい出版背景の中で、勢いのある出版社もあるということは、何だか心強く思った。

ますますグローバル化する出版市場

個人的には5年ぶりに訪れたブックフェアだったのだが、第一印象は、出版業界もグローバル化の流れに逆らえないのだろうということだ。20年前には、家族4人（お父さんが社長、お母さんが経理、娘さんが編集、息子さんが営業）で始めた出版社が、数年後に世界的な大ヒット作品を出す、なんてことは以前はあつたが、そういう小規模あるいは中規模の出版社が、大資本の出版社の傘下に入り、大きなブースの一角で、展開しているという光景が当たり前になっている。また、その大資本の出版グループ自体も、規模は今やアメリカではなくヨーロッパのグループが世界NO.1となり、これもEC連合になって加速したようだ。

でも、そんな中でも、あれ？聞いた事がない出版社が・・・とあっていてあるフランスのブースを覗いてみると、そこには以前別の出版社の版權担当者だったM女史が。なんとこの5年で、結婚・出産・退職・転職・復帰とフルコースを経験し、以前の出版社の友人が独立して出版社を立ち上げたので、またがんばっているとのこと。そう、やはり出版は、書く人がいて（作家）、それを手助け（編集）し、広める人（営業）がいて、読む人がいて…と、すべて、人から人

へ手渡されていく物であるということを知り、彼女から改めて教えてもらった。私が探している作品は、主に未就学児向けの絵本であったが、彼女の出版社の新作（まだ未発行の）読み物は、なかなかおもしろいストーリーで、まだまだ続くファンタジー人気の中で、なかなかよい作家の作品を出していく予定のようだ。今は小粒でも、大きな花が咲きそうな予感がして、これだから、出版はおもしろいし、そういった情熱を持って携わっている人たちがいる限り、これからも、待っている子ども達に面白い本が届いていくだろうと思った。

幅広い「本」の定義

今年は、モーツァルト生誕 250 年目にあたり、（日本でもしきりに関連のコンサートが開かれている）昨年秋以降 CD 付きの音楽に関する絵本が特に欧州ではシリーズで多く出版されているようだが、近年発行の、優れた絵本に与えるボローニャの賞が今まではフィクション、ノンフィクション、そして、“NEW HORIZONS” という新興国の絵本が対象の賞に加えて今年の特別賞として、“WORDS & MUSIC” という音楽がテーマの本にも与えるものが新設され、JAZZ トランペッターのウイントン・マルサリスの絵本が特別賞を受賞していた。こちらも含め、本に音源が付いていたり、CD-ROM が付いていたり、またしつけや加工物が中心だったり、中にはかわいいトランクに入った、主人公の人形と絵本入りのセット等、海外の出版物は、流通の違いもあると思うがあまり紙印刷にこだわらない、大らかさがある気がする。読んでもらったり、手にする子ども達は、おもしろいか、楽しいかが選ぶ基準になると思うし、日本の書店が、もっと幅広い品揃えができれば、子ども達はさらに足を運んでくれるのではないかと思った。

読み物は、特に大きく話題になった新しい企画はないらしいが、なかなかのシリーズが



フィレンツェにあるモダンな書店“Libreria Feltrinelli”。山積みの読み物と絵本やパペットなどに囲まれて、読むスペースがある。大都市にチェーン店を持つ。

出ていたとのこと。今年の秋以降、そういった新刊が少しずつ、日本でも翻訳されて出てくるというので楽しみだ。

日本人イラストレーターが大躍進！

今まで出た本の表彰や、これから出る予定の出版物の版權の売買のほかに、このブックフェアでは各国のイラストレーターが応募した作品の入賞作品を展示する、ILLUSTRATION 展がもうひとつの目玉。展示会場の掲示板は初日の午前中にはすでに売込みのちらしや名刺で、すき間がない状態に！そんな、静かな興奮が伝わる展示会場には、2,544 名の応募者の中から、なんと、27 名も入選した、日本人アーティストの作品も展示されていた。入選者は合計 92 名。その 3 割近くが日本人。近年ここからプロの絵本作家として海外デビューしている人も増えている。

例年どおり日本でも、7月の板橋区立美術館を皮切りに、「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」が全国数箇所を巡回展を行われる予定だ。この中には、1年後、あるいは数年後の絵本作家の作品があるかもしれない。そういう目で作品を楽しむもの良いかもしれない。

イタリアでも食道楽の人々が集まっているというボローニャ。昼の商談後、夜も遅くまで街中でワインと食事を通じて年に 1 度の懇親を深める、様々な文化を持つ人々の輪が見かけられた。（ながやま あや：編集者）

近頃気になる児童書出版 —平凡社と鈴木出版

小誌では、3年前に平凡社の『こいぬのうんち』を、2年前に鈴木出版の「海外児童文学シリーズ」の立ち上げを紹介しました。今、この二つの出版社では...

平凡社の絵本

評判高かった『こいぬのうんち』の刊行が2003年。平凡社ではその後も子どもに直接手渡す絵本を世に問うて、話題になっています。

編集長の関口秀紀さんのお話です。



—『こいぬのうんち』は、一人の編集者の個人的な熱い思いで世に出した韓国絵本の翻訳でした。当社が戦後の復興期に、瀬田貞二さんの編集で『児童百科事典』という革

新的な子どものための百科事典を出したことは、子どもの本の世界では「歴史」として知られています。また『ジュニア地図帳』や『はじめましてにほんちず』などでも高い評価をいただいています。また『物語の絵本は、これが初めてでした。』

一方では、『絵本』『心をつなぐ読みきかせ絵本100』『絵本の作家たち(特)~(企)』など絵本に関連した『別冊太陽』をここ30年近い年月の中で20冊近く刊行してきました。今年も『絵本屋さんが選んだ100冊』などを準備中で、別冊太陽編集部編で、1年間に出版された絵本を集計する『この絵本が好き!』を年版で出しています。そうした、社の内外で積み重ねてきた広く厚い蓄積を、直接子どもに手渡す物語の絵本を刊行する形で活用することにしました。完成までに時間もかかりまた評価も未知数でもあることの多い創作絵本の書き下ろしではなく、翻訳絵本を中心に事業を展開させました。まず、「韓国の四季の絵本シリーズ」4冊をはじめとして、韓国絵本の翻訳。加えて、既に半世紀にわたって古典・新刊共に日本に紹介され続けているイギリスとアメリカ以外の国の作家を柱にするこ

とにしました。

ブリュッセル生まれで、フランスで活躍するマリオ・ラモの作品は、『ねんねだよ、ちびかいじゅう!』など現在まで6冊。オランダ生まれで、ベルギーとフランスで活動しているエルウィン・ヴァン・デン・アレンドの『パピヨンと魔法のえんぴつシリーズ』が4冊。今イギリスの現役作家で一番人気があるイギリス人のアンソニー・ブラウンの作品が『おんぶはこりごり』など現在まで4冊。

どの作家も、子どもなら誰でも経験のある失敗や努力を、ユーモアのある簡潔な文で綴り、子どもが自分を重ねて楽しめる絵本です。

100年間にわたって愛されてきたドイツのジビュレ・フォン・オルファースの絵本が昨春の『ねっこほっこ』刊行で6冊まとめて読めるようになりました。20世紀初頭の絵本ですが、ドイツでは、今も刊行され続けています。日本でも、ゆったりとした伸びやかな世界を詩と絵の融合で楽しむことが出来るようになったことに、高い評価をいただいています。

最後にちょっと脱線しますが、私は絵本の編集のほかにも、「平凡社ライブラリー」という文庫の編集にも携わってきました。こちらのラインナップにも、五味太郎・小野明『絵本を讀んでみる』長新太『海のビー玉』などが入っています。

6月にスズキコージさんの『ガッタンゴットン』が予定されるなど、日本の作家の創作絵本の新刊が、おいおい刊行されていくそうです。総合出版社が子どもに手渡す絵本は、子ども時代に誰もが抱える問題と誠実に向き合っている作品で、絵の技法では新しい時代が感じられます。

物語の力を信じて 鈴木出版の海外児童文学シリーズ
編集長の今西 大さんのお話です。

—幼い子どもたちのための絵本については実績を自負していますが、幼年童話を飛び越えて、いきなり小学校中・高学年から中学生・高校生までを視野に入れた書物の刊行は社としても大英断でした。

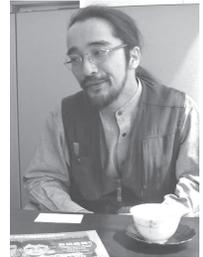
ラインナップについては、日本では紹介されることが少ない地域や言語による質の高い作品も積極的に探していくという方針でのぞみました。

既刊 10 冊の初出国は、フランス・オーストラリア・イタリア・イスラエル・オランダ・カナダなど広範囲ですし、いろんな言語で書かれています。内容のわかりやすさはもちろんですが、紙面の読みやすさについても、読者に負担を少なくしたいと思っています。文字の大きさや行数・行間などは、ファンタジーのベストセラーを参考にしました。分量は 200 頁位に収まることを目安にしています。自分でも探しまくりましたが、エージェンシーや翻訳者の方に紹介してもらった本もたくさんあります。

集まってきた本は、1冊1冊できるだけ目を通し、内容や原作者の姿勢などを吟味し、よい作品があれば、社内のスタッフといっしょに最

終的に検討し決めていきます。

このシリーズは、「むかしむかしあるところ
で、ある日」ではなく、暮らしている人が実際にいる場所がほとんどです。テレビのニュースなどで、その地の状況が報道されることも少なくありません。写真や映像には、ことばで



は表現できないインパクトがあります。けれども、読者と同じ年頃の子どもの主人公にした読み物には、写真や映像では伝えきれないものを、心をゆさぶるドラマとして伝える力があります。このシリーズでは、背景への解説はできるだけスリムにし、作品の文学性を感じ取ってもらえるよう配慮しています。—

子どもが物語と出会うとき、文学のジャンルが最初にあるのではなく、自分を重ねる登場人物と共に物語に入れるかどうかがキーになるのでしょうか。物語の中で経験する困難・幸運・努力・信頼・愛情などが、長じて厳しい社会状況に理解が及んだとき、じわっと沁みだして生きる力になる作品を手渡すのだ、だからこそ、大勢の子どもに読んでもらいたいという思いが伝わる今西さんのお話でした。

復刊！人気作家ようねん童話

あの名作童話たちがよみがえった！
この優しさとあたたかさを子どもたちに。

かみなのちびた
松野正子・作 長新太・絵

七つのぼけっと
あまんぎみこ・作 佐野洋子・絵

ゆきこんこん物語
さねとうあきら・作 井上洋介・絵

ブーフーウー
飯沢匡・作 土方重巳・絵

さあゆけ！ロボット
大石真・作 多田ヒロシ・絵

こぶたのぶうた
神沢利子・作絵



定価各1260円 (税込)

理論社

〒162-0056 東京都新宿区若松町 15-6
TEL03-3203-5791 FAX03-3203-2422
<http://www.rironsha.co.jp>

子どものまわりにいるすべての大人へ

ドロシー・バトラー 著◆百々佑利子 訳



クシュラの奇跡

—140冊の絵本との日々〈普及版〉

複雑な重い障害を持って生まれた少女の
“生”のたたくいと、成長にかかわった
数多くの絵本の物語。

★大きな反響を呼び、長く読まれ続けて
きた本の普及版。

★「その後のクシュラ」掲載。

19×14cm 270P ISBN4-931129-09-9

●定価1,680円 (本体1,600円)

子どもが本の楽しさに出会うためのブックガイド……

赤ちゃんの本棚—0歳から6歳まで

A5判 438P ●定価2,730円 (本体2,600円)

5歳から8歳まで—子どもたちと本の世界

A5判 318P ●定価2,310円 (本体2,200円)

のら書店

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-3-27
ハーマニ別館102号
Tel.03-3261-2604 www.norashoten.co.jp

佐藤さとるファン待望の新作ファンタジー!

本朝奇談天狗童子

佐藤さとる・著/村上豊・画 5月31日発売!!
A5判/311頁/定価1,680円(税込) [小学校高学年以上向]
★戦国時代を舞台に相模大山のカラス天狗・丸九郎の活躍を描く。

●妖怪ハンター・ヒカル・3 [小学校中学年以上向]

かえってきた雪女

斉藤 洋・作/大沢幸子・絵
A5判/99頁/定価1,050円(税込)
★雪女の強力パワー攻撃に、新米陰陽師のヒカルは絶体絶命!?

記号のポケット図鑑 全2巻

村越愛策・監修 [小学校中学年以上向]
17cm×13cm/各96頁/定価各1,260円(税込)
★校外学習等で、調べたい時にすぐ使える、便利な携帯版の記号図鑑。

あかね書房 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-36 北神ビル2階
TEL.03-3263-0641 FAX.03-3263-5440
http://www.akaneshobo.co.jp/

運動のコツ教えます!
体育の授業が
待ちきれない!

新刊



きょうから 体育が 好きになる!

- さかあがり/一輪車
- なわとび/短距離走
- クロール/平泳ぎ
- とび箱/マット運動
- サッカー/ドッジボール/
バスケットボール/ソフトボール

全5巻 揃税込11,550円 小・低学年〜高学年向き
31×22cm 各40頁 カラー 下山真二/著

図書館用カタログ進呈します! ご注文ください

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21
Tel.03-3945-6613 Fax.03-3945-6616 http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

ミキハウスの絵本

謎の鳥ドードーとせいちゃんの愉快なシリーズ第2弾!

ドードーとせいちゃん

おはなしえほん わたせせいぞう作

うみのたねまき

ISBN4-89588-386-8

ふしぎなかわ

ISBN4-89588-387-6

22P/15.5cm×15cm/ボードブック
全4巻/定価各630円(税込)



ドードーがせいちゃんを連れて行った不思議な川。一番星が出る、川は星が流れる天の川に…ロマンチックな物語。(ふしぎなかわより)

好評発売中! ・せいちゃんのしっぽ ISBN4-89588-371-X
・ドーナツだいすき! ISBN4-89588-372-8

miki house

三起商行株式会社 〒102-0072 東京都千代田区橋田橋3-9-3 SKプラザ3階 ☎03-3511-2561

こどもくらぶ 新刊情報

岩崎書店 国際関係がよくわかる 全4巻
宗教の本 定価 各2940円

フレーベル館 用語でわかる! 全2巻
国際関係かんたん解説 定価 各3990円

ほるぷ出版 スポーツなんでも事典 全3巻
定価 各3150円

学事出版 先生のための著作権入門の入門 単行本
子どもに生きた経済を教える本 定価 各1575円

問い合わせ・予約 TEL: ☎0120-525-555 FAX: ☎0120-025-555
こどもくらぶ URL: http://www.imajinsha.co.jp/

復刻版

6月再版予定

ヴェルサイユの庭園



19世紀に創られた優雅なぞきしかけ絵本です。のぞき穴のむこうは木立に囲まれたサンタントワヌの道、ヴェルサイユ宮殿に行き来する馬車や馬、散策し憩う人々。そこはまさに19世紀の華やかなフランス宮廷文化の真ただ中です。

定価 2,625円 A5変 ISBN4-499-28129-6 NDC726

大日本絵画

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-7
TEL 03-3294-7861 FAX 03-3294-7865

アートな絵本シリーズ 第4弾!

シャガール

わたしが画家になったわけ



シャガールの自伝をカラージュエとボックスアート織り交ぜ再現。

【文・絵】ランドマン
【訳】白崎容子

B4変型 定価 1890円 ISBN4-89013-890-0

好評既刊!

ジョットという名の少年 第6回日本絵本賞
羊がかなえてくれた夢 翻訳絵本賞

天才レオナルド・ダ・ヴィンチと少年ジャコモ

クリムトと猫 イタリア・アンデルセン賞
ベスト・イラストレーター受賞 ●各 1890円

西村書店

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-6
☎ 03-3239-7671 Fax.03-3239-7622